日時：令和8年10月24日（土）14：00～16：00

場所：大阪府立槻の木高等学校　応接室

令和８年度 大阪府立槻の木高等学校 第２回学校運営協議会 議事録

【出席者・欠席者一覧】

【出席者】

（委　員）

会　長：北元 正志（本校 PTA 会長）

委　員：宮坂 政宏

委　員：官田 光史

委　員：有本 昌剛

委　員：福本 章一郎

（事務局）

浅田 和也（学校長）

坂口 亮（教頭）

水井 理弘（事務長）

江菅 純一（首席）

井上 公彦（首席）

【欠席者】

委　員：岩元 優子（副会長・高槻市立第一中学校校長）、事務局：山本 将司（学習指導室長）

【次　第】

1、開　会

2、令和８年度 学校経営計画進捗状況について（説明：浅田校長）

3、令和８年度 前期授業アンケート結果について（説明：坂口教頭）

4、令和９年度 使用教科書採択について（説明：坂口教頭）

5、協　議（質疑応答・意見交換、生徒指導の現状、学校改革・広報活動）

6、次回会議日程の確認と閉会

【議事詳細および協議内容】

1、開　会

学校運営協議会の開会が宣言され、本日の議題および配付資料の確認が行われた。

2、令和８年度 学校経営計画進捗状況について（説明：浅田校長）

校長より、学校経営計画の進捗状況および今後の学校改革の方向性について詳細な説明が行われた。

・入学者選抜倍率の推移と見通し：開校当初から現在までの選抜倍率の推移を説明。令和９年度入試においては倍率１倍超えを期待されること。

・令和 10 年度「学校特色枠選抜」の導入：「運動部活動に意欲的な生徒」10%、「国際交流に興味・関心の高い生徒」5%を募集枠として設定し、多様な強みを持つ生徒の獲得を目指すこと。

・新教育課程の完成と放課後デザイン：来年度入学生から実施する新教育課程が令和 11 年度に全学年で完成予定。7限目相当の時間帯（放課後）を生徒自身が主体的にデザインできる学校づくりを進めること。

・プロジェクトチーム（PT）の検討状況：学校改革 PT、新カリキュラム PT、総合的な探究の時間 PT を中心として、新たな学校づくりに向けた具体的な検討を進めていること。

・中長期的な展望：令和 14 年度から予定されている次期学習指導要領導入も見据え、「選ばれる学校」をめざして教育活動および広報活動をさらに充実させていくこと。

※本件に関する委員からの質疑・異議はなし。

3、令和８年度 前期授業アンケート結果について（説明：坂口教頭）

教頭より、前期授業アンケートの集計・分析結果について説明が行われた。

・全体傾向：各項目の平均値は昨年度と比較して高い水準を維持。唯一低下した「Q7 先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている」も低下幅は 0.02 ポイントにとどまり、良好な状態を保っていること。

・学年別傾向の分析：

- 1 年生：高校進学に伴い高い学習意欲が見られる。
- 2 年生：他学年と比較して数値が低く、いわゆる「中だるみ」の傾向が見られるため、さらなる授業改善および学習支援が必要であること。
- 3 年生：進路実現に向けた意識の高まりが数値に反映されていること。

・回答方式の変更と生徒へのフィードバック：今年度より Google フォームによる回答方式へ変更したことで自由記述回答が増加。生徒の思いをできる限りそのまま教科担当者へフィードバックしたこと。

4、令和９年度 使用教科書採択について（説明：坂口教頭）

教頭より、令和９年度使用教科書について説明が行われた。

・例年どおりの採択方針とし、特段難易度を変更した教科等はないことを説明した。

※本件に関する委員からの質疑・異議はなし。

5、協　議（質疑応答・意見交換、生徒指導、学校改革・広報）

（1）授業アンケート分析および「自走力」の育成について

・委員：肯定的回答が９割を超えている点は評価できるが、否定的回答が１割を超えている項目について掘り下げて分析することで、生徒や学校の課題がより明確になるのではないかとの意見があった。

また、生徒による授業評価だけでなく、教員自身による自己評価や振り返りの視点も取り入れることで、より効果的な授業改善につながるのではないかとの意見があった。

さらに、教科別集計において数学科の否定的回答率が 16.2%となっていることについて、学校としてどのように分析しているのか質問があった。

・首席：本校生徒は文系 55%・理系 45%程度で推移していること、1・2 年生では文理を問わず数学を履修すること、さらに 3 年生では進路選択により数学を必要としない生徒も存在することから、学習意欲との関連が結果に影響していると考えられる。

・委員： 家庭学習時間が低下している現状を踏まえ、生徒が主体的に学習へ取り組み、自ら考え行動する力を身に付けられるよう、学校全体で支援していく必要があるとの意見があった。また、学校として育成をめざしている「自走力」と関連付けながら、生徒の学習習慣の定着を図ることが重要であるとの意見があった。また、生徒自身が感じている「うわさよりいい槻の木高校」という学校の魅力についても、積極的に広報してはどうかとの提案があった。

・委員：大学では授業評価結果が公開される事例もあり、高校においても教員間で評価結果を共有することに一定の意義があるのではないか。また、アンケート質問項目についても、より課題が明確になる内容への見直しを検討してはどうかとの意見があった。

・委員：文系・理系の生徒割合や関西大学との高大連携事業について質問があった。

・首席：新教育課程完成後は、放課後の時間を活用して関西大学の授業を受講する生徒が増えることを期待している。高校での増単位認定に加え、大学での単位認定（一部学部で認可）についても説明を行った。

（2）生徒指導および生徒の日常の様子について

・（質問）：現在の生徒指導の状況や生徒の行動様式について質問があった。

・首席：特に 1 年生について、他学年と比較して周囲の状況を見て判断する力や時間を意識して行動する力が弱くなっていると感じる場面がある。従来の槻の木高校の生徒には比較的見られていた行動様式に変化が生じており、指導面での配慮や工夫を行っている。

（3）学校改革・放課後の活用および広報活動について

・委員：放課後の時間を生徒自身がデザインできる取組は大変意義があると感じる。一方で、その時間が単に塾へ通うだけの時間にならないよう、学校として適切な方向付けやサポートを行ってほしい。

・首席：学校改革 PT における取組内容や今後の学習支援体制について説明を行った。

・教頭：今年度、学校魅力発信支援事業として TOPPAN と連携しながら広報活動の充実に取り組んでいること、新ホームページの制作（今年度中公開予定）、公式 Instagram での「1 分でわかる槻の木」シリーズ化（毎週発信・生徒からも好評）について報告した。

・委員：槻の木高校が定員割れをしていることが不思議に思えるほど、学校として様々な取組を積極的に進めていると感

じる。今後も継続して魅力発信に努め、定員充足に向けた取組を進めてほしいとの意見があった。

（まとめ）：各委員より本校の教育活動・学校改革に対する高い評価と期待が述べられ、今後の生徒の主体性育成や広報展開についての助言を得た。事務局より、いただいた意見を今後の学校運営に活かしていく旨を伝えた。

6、次回会議日程の確認と閉会

次回会議日程：令和９年１月２９日（金）14:00～16:00

内容：公開授業実施予定（14:00～14:30 授業見学、14:30 より協議会）